

カルチュラルセミナー(6)浅草の近代建築

浅草界隈には近代建築が多くある。平成24年の元旦に久しぶりに訪れた。浅草寺の表参道から順に風雷神門、仲見世店舗、宝蔵門、五重塔を左手に臨み本堂へと通じる。それらの建物は、関東大震災や太平洋戦争の被災を受けたために、鉄筋コンクリート造で再建されている。日本最古の遊園地「花やしき」、芸能人の手形で有名な「浅草公会堂」、神仏習合なごりの「浅草神社」そして、我妻橋からお台場までの豪華遊覧船「卑弥呼」、オンチビル、世界一の高さ634mの三次元トラス構造の「スカイツリー」がある。浅草寺周辺通りでは、ビニルハウスの屋台、浅草焼の天秤棒販売の名物兄ちゃん、そして観光人力車などにでくわす。浅草は何となくアンバランスな町だけど、何度行っても飽きない町である。



参拝客であふれる浅草寺表参道



仲見世のRC造店舗



RC造の風宝神門



3次元立体トラスのスカイツリーとオンチビル

カルチュラルセミナー(7) 東海七福神

新年に東海七福神巡りをした。ここは旧東海道の品川宿跡である。大黒天を祀る品川神社をはじめに約1里を歩き3寺・4社をお参りした。旧東海道の1番目の宿場町ということだけど、旅籠、茶屋もなく、もちろん遊郭もない。昔の面影を見ることができないのが残念である。ところどころに、間口が狭く奥行きが広い空き地があるのが、何となく歴史を想像させてくれるだけである。地元の人々は地域ごとに幟をたてて振興に努力しているようであるが、地域間の利害の葛藤も垣間見られる。世界では民族や宗教の争いが絶えないが、我欲を捨てて日本の伝統と文化を守ってもらいたいものである。神仏習合こそグローバル化の踏み絵である。この地の神々はグローバルなのだから。



大黒天 (品川神社)



布袋尊 (養願寺)



旧東海道品川宿



寿老人 (一心寺)



恵比須 (荏原神社)



弁財天 (盤井神社)



福祿寿 (諏訪神社)



毘沙門天 (品川寺)

カルチュラルセミナー(8)川崎宿

川崎はまだまだ復興にはほど遠い状況である。2月20日に旧東海道の川崎宿を歩いたが、川崎の歴史と文化に触れることができなかつた。川崎宿は、六郷橋から八丁畷までの約2kmである。広重の浮世絵からは川崎宿の優雅な街並みをうかがうことができるが、関東大震災そして太平洋戦争の空爆などのために昔の街並は完全に失われてしまった。そして京浜工業地帯としての産業振興の重点施策の中で、その街並みは復興することがなかつたのだろう。川崎市は多摩川の河口から北西に約30kmの川沿いの細長い街で、その先端で私の住む多摩市と接している。多摩川沿いには南武線が走っており、昔の砂利運搬鉄道が今では情報化産業が立地するハイテク鉄道に様変わりした。旧東海道のすぐそばには国道15号線が通っており、大型のコンテナ車が隊列をなして頻繁に往来する。八丁畷から川崎大師までの旧東海道を約4km歩いたが、茶店も、一服するところもなく、何となく経済活動から阻害された通りである。長年にわたって先人が築いた伝統・文化と経済社会システムとが融合できるゆとりがこれからの社会に必要なのかもしれない。



旧東海道川崎宿



広重の川崎宿 (NHKプロモーション)



六郷の渡し跡



川崎大師

カルチュラルセミナー(9) 秩父事件

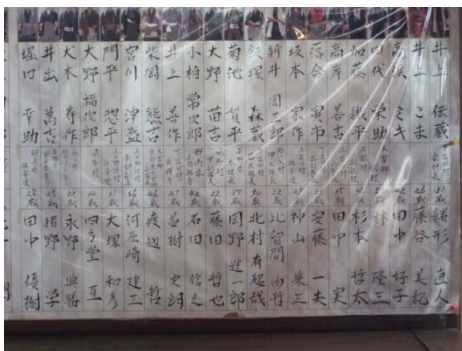
秩父事件の発端となった秩父市吉田町を訪れた。秩父事件は、明治17年に当時のデフレ不況、増税、欧州大恐慌によって困窮した養蚕農民の武装蜂起事件である。秩父の名物手作りロケットの資料が展示された「道の駅龍勢会館」には、映画「草の乱」のオープンセット、そして映画の主人公となった資料館として井上传蔵邸が併設されており、事件の様子を知ることができる。憲法制定・国会開設の準備下における明治政府と、自由民権思想に影響された農民との代表的な武力抗争である。現在の政治の混乱やデフレ経済は、130年前の政治・経済の再現であろうか。政治・経済は時代に応じて何かと変化するけれど、進歩・発展する科学技術とは全く異なる世界である。あの伊藤博文は、当時47歳であったという。



草の乱オープンセット



秩父事件見学コース



カルチュラルセミナー(10) 函館

函館の一日は朝市から始まる。北海道弁丸出しのおじさんの講釈にのせられて干物を買うのもいい。青函連絡船に乗り継ぐために走った栈橋はもうないけれど、懐かしい摩周丸を見ることができる。元町の坂は相変わらずきつい。寺院・教会を見て、ロープウェイで函館山に昇り、それぞれの写真を撮るのが定番である。日本最古の鉄筋コンクリート造の寺院と電柱がある。電柱はもう博物館へ入れてやったほうがいい。函館戦争の中心となった五稜郭は、展望タワーから一望できるようになった。トラピスチヌとトラピスト修道院が昔と同じように無愛想である。郊外へ足を延ばすと、大沼公園、松前城、千代の富士記念館、世界一長い青函トンネルなどがあるが、駆け足で通り抜ける。函館は地域特有の資源に恵まれているけど、何故か静か過ぎる。



朝市のおじさんと



懐かしの摩周丸



函館の夜景



五稜郭



大沼公園



日本最古のRC造寺院



ハリストス正教会



日本最古のRC電柱



トラピスチヌ修道院



福島町の九重部屋の親方



トラピスト修道院



日本最古のRC電柱



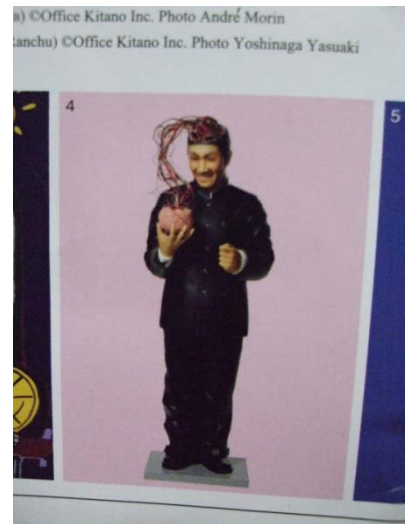
青函トンネル出入り口

カルチュラルセミナー(11) 絵描き小僧展

たけしは、やっぱり天才である。新宿のオペラハウスのアートギャラリーで「絵描き小僧展」が開催されている。平面的で、遠近感のない、色彩の豊かな絵に、何故か違和感を持つことがなく受け入れることができる。本人の「脳内構造の表現」から始まり、「動物や魚の内部構造」が繊細に描かれている。「花と動物」「魚と動物」「大切なものだけが強調された人物像」など、見るもの全てが納得させられる。多分、両親から受け継いだDNAと、幼児期の環境に育まれた感性が、このような表現となるのだろう。天才たけしの、繊細な脳内構造をここで見る事ができる。タイトルはないけど、自分で想像するのも楽しい。



アートギャラリー、エントランス



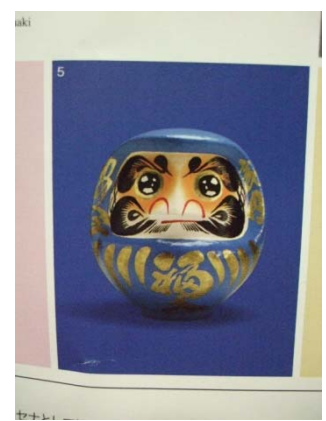
たけしの脳内構造



私はクジラから生まれた？



自画像



自画像



魔神？



お風呂のおもちや



カバになりたい金魚

アメフトパールボウルの鹿島ディアーズの応援に行った。ディアーズは、創部23年、日本選手権・社会人選手権、それぞれ2回の優勝の名門である。私の勤めていた技術研究所にも何人かのメンバーがいた。私の直属の部下は、実験研究を行い、建築学会に発表する普通の社員であった。最近、目先の利益だけに振り回されて、スポーツから撤退する企業が多くなっている。働かない蟻を排除できずに、スポーツに業務に汗を流す人々を排除する経営方針が理解できない。挨拶もできず、先輩・高齢者を尊重しない社会の風潮も気になる。ディアーズのメンバーは、組織の基本的な規律を教えてくれる。ディアーズは、予選リーグを大勝して、東京ドームの決勝に進んでくれるだろう。そして優勝して、オーナー、社員、OBで大乾杯をしたいものである。



川崎球場にて



富田チアリーダー部長と

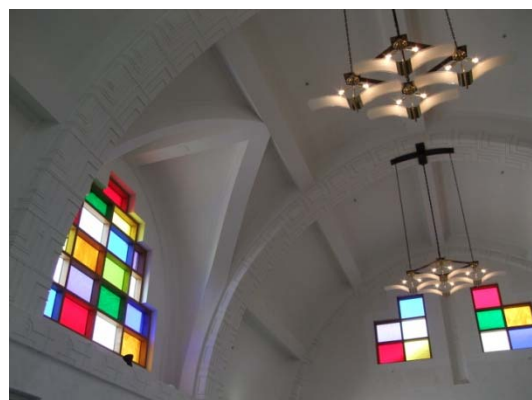


カルチュラルセミナー(13)一畑電鉄

出雲市から出雲大社前駅・松江宍道湖温泉駅までバタデンに初めて乗った。バタデンは一畑電鉄の愛称で、出雲平野の田園地帯と宍道湖北岸を走る私鉄である。これまで、松江に7年間住んでいたけれど、出雲大社や出雲市に行くのは車だった。また、東京へ帰ってから、49歳でバタデンの運転手になった「レイルウェイズ」の映画を見て、家族愛と懐かしさに涙したこともあって、これまでと違った気持ちで風景を楽しむことができた。映画で使われたバタデンの昭和初期につくられたオリジナルの電車を平田駅の車庫で発見することもできた。現在は首都圏の私鉄で使われていたおさがり電車が走っている。出雲市から出雲大社前駅へは、南海電鉄と京王帝都電鉄の電車を乗り継いで行くことができた。出雲大社前駅は、1930年竣工の鉄筋コンクリート造の伝統的な様式建築である。アーチ天井とカラーガラス窓など職人技を見ることができる。近くには、1924年竣工の木造和風建築の旧国鉄大社駅がある。大阪や東京からどのようにして電車を運んだのだろうか？バタデンは狭軌なのに広軌の京王線の電車が走る。色々疑問があるけど、眠れないほどの悩みではない。この電車には自転車を乗せることができるから、何となく癒される。



1930年竣工のRC造の出雲大社前駅



駅舎内のアーチ天井



京王のおさがり電車



出雲市駅



平田駅のオリジナル電車



電車から宍道湖を望む



旧国鉄出雲大社駅



松江宍道湖温泉駅